

(別記)

2019 年度高島市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当市は、琵琶湖の西岸に位置し、平成17年に6町村が合併した面積は県下の広さとなっている。北部・南部で気候が異なり特に北部地域は豪雪地帯で湿地が多く、栽培に適していない品目や不耕作地の活用が課題となっている。こうした中、地域に適した品目の作付を推進し、水田の有効活用にむけて地域全体での取り組みが必要となってきた。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

生産者が需要動向を勘案し、自ら生産調整を行えるよう啓発、推進を図る。
また、農地利用の最適化を推進し、生産性の向上を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米 団地化、集積化を推進し、生産性の向上を図る。

イ 米粉用米 実需者との契約に基づく計画的な生産を図る。

ウ 新市場開拓用米 作付の更なる推進を行い、作付面積の拡大を図る。

エ WCS用稲 団地化、集積化を推進し、生産性の向上を図る。

オ 加工用米 実需者との契約に基づく計画的な生産を図る。

カ 備蓄米 麦・大豆・畑作物等の畑作物の生産に適さない地域を中心に需要に応じた生産、数量確保に努める。

(3) 麦、大豆、飼料作物

北部地域は豪雪地帯で湿地が多く、麦・大豆等畑作物に適していない地域があるので、比較的作りやすい地域で推進していく。

(4) そば、なたね

今津地域のそばは、手作り工房や直販施設の整備、また新旭地域のなたねは、集積による美観や自然に優しいなたね油の供給に努めるなど、双方ともに官民一体となった努力により作付面積の拡大を図ったものであり、今後も団地化を図る。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

需要に対応できるように、地域振興作物（キャベツ・赤かぶ・まくわうり・玉ねぎ・な

す・かぼちゃ・大根・すいか・とうもろこし)の生産拡大を図る。

(6) 畑地化の推進

転作作物の作付圃場を固定化し、畑地化を推進することで、生産力を高める。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	2,902	2,927	2,825
飼料用米	108	110	145
米粉用米	0	1	3
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	51	55	65
加工用米	385	387	270
備蓄米	0	2	22
麦	83	85	105
大豆	140	142	143
飼料作物	7	7	8
そば	56	58	70
なたね	7	8	10
その他地域振興作物	65	66	57
・指定野菜	27	33	33

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	麦・大豆・飼料作物 (基幹作物)	麦・大豆・飼料作物生産性向上助成(団地化・面積拡大)	団地化面積割合 集積面積割合	(2018年度) 53% 39%	(2020年度) 70% 50%
2	そば・なたね (基幹作物)	そば・なたね生産性向上助成(団地化・面積拡大)	団地化面積割合 1ha以上の農家割合	(2018年度) 4% 19%	(2020年度) 10% 30%
3	WCS用稲 (基幹作物)	WCS用稲生産性向上助成(団地化)	団地化率	(2018年度) 78%	(2020年度) 100%
4	大豆・そば・なたね (二毛作)	大豆・そば・なたね担い手助成(二毛作)	担い手生産戸数割合	(2018年度) 75%	(2020年度) 100%
5	別表に定める雑穀 (基幹)	雑穀担い手助成	担い手生産戸数割合	(2018年度) 75%	(2020年度) 100%
6	別表に定める雑穀 (二毛作)	雑穀担い手助成 (二毛作)	担い手生産戸数割合 面積拡大	(2018年度) 100% 623a	(2020年度) 100% 800a

7	キャベツ・赤かぶ・まくわうり・玉ねぎ・なす・かぼちゃ・大根・すいか・とうもろこし(基幹作物)	指定野菜助成	生産面積	(2018年度) 2,332a	(2020年度) 2,600
8	キャベツ・赤かぶ・まくわうり・玉ねぎ・なす・かぼちゃ・大根・すいか・とうもろこし(二毛作)	指定野菜助成 (二毛作)	生産面積	(2018年度) 361a	(2020年度) 750a

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり